連携・協働のプラットフォームを構築する
広島県立生涯学習センターの研修事業の試み

〇清國祐二　（香川大学・せとうちネットワーク）
葛原生子　（広島県立生涯学習センター）
志々田まなみ（広島経済大学・せとうちネットワーク）
〇新田憲章　（広島県立生涯学習センター）
山川肖美　（広島修道大学・せとうちネットワーク）

研究経過

- **広島県立生涯学習センターと高等教育機関の連携による社会教育関係職員研修の成果と課題**

（第31回大会発表）

・県立生涯学習センターが、高等教育機関の研究者と連携して社会教育関係職員の研修プログラム（初級研修）の開発と実施を行った。**（→「連携」は今回に引き継いでいる。）**

・学会発表は「初級研修」に絞った。研究者との連携により、3タイプの研修（パッケージ・オーダーメイド・カンファレンス型）が提案され、段階的な研修プログラムの確立が構想された。

＜平成23年度成果＞

・センター職員（社会教育主事）、研究者、支援者、**上級研修修了生**の連携による「初級研修の充実」が図られた。

→循環型の「上級研修」の実践を中心に発表する

問題意識

- **連携・協働のプラットフォーム①**

＜背景＞

・単体でミッションの遂行に取り組み、有効な成果をあげる

→　限界に近づく（課題に潜む背景や要因の複雑化）

・都道府県立生涯学習センター等の役割に変化が起こる

→　学習機会提供・情報提供からの脱却

＜必要性＞

・既存の組織や団体のノウハウの蓄積は大きな「強み」

→　それぞれの「強み」を結び、課題解決へ向かわせる

・共通する行政課題としての協働

→　「委託」や「アウトソーシング」ではない「協働」の形

＜それを支えるもの＞

・社会教育主事の存在の重要性

研究の力点

- **連携・協働のプラットフォーム②**

＜場としてのプラットフォーム＞

・さまざまな主体が「乗り入れられる」場所は必要である

→　ネットワーク（連合組織）つくりだけでは不十分

＜機能としてのプラットフォーム＞

・生涯学習振興・社会教育推進等、共通の目的が必要である

→　連携・協働して取り組む「具体」の設定

・信頼関係の構築と、その関係が発展する見通しをもつ

→　スパイラルやスピンアウトのイメージ

＜「機能」の発揮に向けて＞

・「社会教育主事」の存在の重要性（再）

・乗り入れる組織等の「主体的関わり」が必要

都市の規模に応じたプラットフォーム

- **多様な主体が乗り入れるプラットフォーム**

＜主体を「つなぐ」役割＞

・市町村支援をする都道府県（市町村職員や広域人材育成）

・住民支援をする市町村（個人や集団のエンパワーメント）

・今後は団体・NPO組織・ボランティア等（個人）にも配慮

研究者ネットワークの形成

- **せとうちネットワークの設立**

（正式名称：せとうち生涯学習研究者ネットワーク）

＜研究者の3つの役割＞

・プラットフォームに乗り入れる一主体

　生涯学習・社会教育の実践研究を連携・協働で

・シンクタンク・コンサルタント機能の発揮

　研究分野を生かした専門的指導・助言

・触媒機能の発揮

　他の主体同士の連携・協働を促進する

　（今後、求められていく機能）

＜初級研修・上級研修を協働によって実施＞

・受講者やその上司、同僚も協働の主体へ

　研修で資質を高めることと期待に応えること

広島県立生涯学習センターの5つの機能

- 調査研究
- 情報提供
- 指導者研修
- モデル事業

市町・関係機関・団体等との
連携・協働

県立生涯学習センターの研修がめざすもの（その1）

実践重視

参加者の職務や活動に「生かせる」知識・技能が修得できるよう，実践を重視した内容を提供すること。

参加型

参加者が自ら考えることで，何かを変える，新しいものを「創る」きっかけとなる場を提供すること。

交流の場

参加者同士が，互いの「実践から学ぶ」ことやベテラン職員の経験を「伝える」などの交流の機会を作ること。

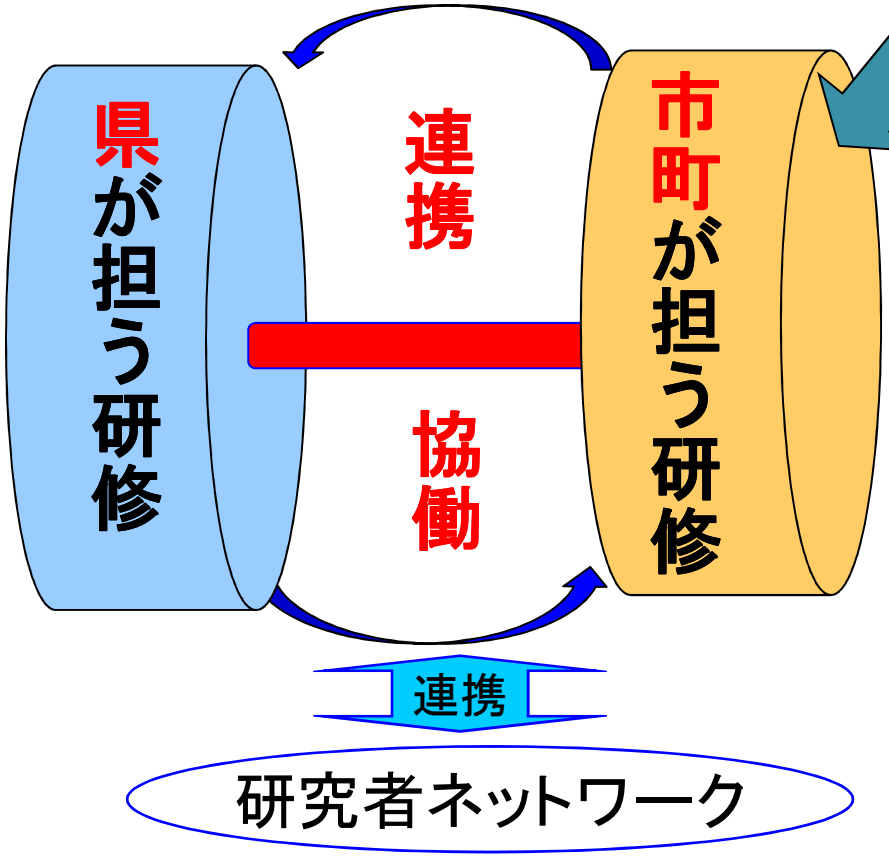
指導力向上

市町で行われる研修で「中心的な役割」を果たすベテラン職員の指導力向上の機会を提供すること。

県立生涯学習センターの研修がめざすもの（その2）

連携・協働による好循環の仕組みづくり

県と市町，それぞれが担う研修で「学んだこと」や「学んだ人」が好循環する仕組み



地域課題研修支援

修了者による各自市町での研修立ち上げを県立生涯学習センターが支援

県の研修を受講した人が各自市町で

- 各自の市町の研修を企画運営
- 初任者の指導

県，その他の研修会で

- 県の研修の支援者，講話者
- 社会教育関係団体の研修会のコーディネーター

県立生涯学習センターの研修体系図

生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修　市町職員

つけたい力

住民ニーズや市町の課題に対応し，施策を推進するのための専門的な知識・技能
- 社会教育に関する各種計画や事業の立案能力
- 生涯学習関係者等の連携を進めるためのコーディネート能力　等

上級研修

【連携先】高等教育機関関係者等

専門性の向上
- 生涯学習振興・社会教育行政の施策推進の基礎
  （生涯学習・社会教育の動向，関係職員の役割）
- 施策推進に必要な知識・技能の向上
  （地域の学習課題等の把握・分析，企画立案，評価）

初級研修

【連携先】高等教育機関関係者等

生涯学習振興行政等の基礎的知識・技能の習得
- 生涯学習振興・社会教育行政の基礎（国・県の動向，法令等）
- 住民への学習機会提供業務の基礎（学習プログラム作成の基礎的知識，技能）

地域課題対応研修支援

市町職員

まちづくり等
各市町の課題

重点施策別研修

住民・リーダー

家庭の教育力向上
「親の力」をまなびあう
ファシリテーター養成講座等

地域の教育力向上
放課後子ども教室
コーディネーター研修等

学校支援　等
学校支援地域本部
コーディネーター研修等

専門研修

専門的・実践的な知識習得

資格取得研修	社会教育主事講習(B)（国立教育政策研究所等と連携） 平成 23 年 1 月 19 日～2 月 25 日
専門別研修	県公民館職員等研修（県公民館連合会と連携） 県社会教育委員研修会（県社会教育委員連絡協議会と連携）

自主研修支援

自主研修に役立つ情報をウェブサイト（生涯学習センターＨＰ）で提供

上級研修の特徴　その1

○　市町の中堅以上の社会教育職員を対象

○　受講者は上級研修に課題意識や期待をもって臨む
　※　上司にも研修の意義を理解してもらう
（協働の趣旨）

○　少人数グループ制　・　グループに支援者を配置
　※　きめ細やかな指導･助言体制の確立

○　研修期間中（約4ヶ月　４日間）に
適宜グループで協議を重ねる
　※　教育的相互作用への期待
　※　受講者相互のネットワークづくり

上級研修の特徴　その２

○　研修最終日に成果発表を行う
　※　目標の設定と達成　　Off－JTの意義の再確認

○　継続的な個人研究への支援

○　アウトカム評価を意識した研修
　※　修了者の研修成果を生かす場・機会を提供
　　・県公民職員館研修や社会教育委員研修等各種研修会で役割を担う
　　・初級研修の支援者
　※ 職場研修や地域研修の企画・運営
　　→地域課題対応研修支援事業により支援

上級研修受講者の自己認識と研修への期待（22年度＋23年度受講者）

学習支援の段階	学習支援に必要な能力・研修に必要な要素	自己認識	期待度	効果
地域・学習課題の設定	①地域や地域住民の現状を把握する能力	☆☆☆	☆☆☆	5
	②地域や地域住民の課題を抽出する能力	☆☆☆	☆☆☆	9
	③地域住民の学習要求を調査する能力	☆☆	☆☆☆	2
目的・ねらいの設定	④雑多な課題を学習課題化する能力	☆☆☆	☆☆	7
	⑤学習目的やねらいを表現する能力	☆☆☆	☆☆	7
	⑥学習の見通しを示す能力	☆☆☆	☆☆☆	4
学習内容の設定	⑦学習内容を選別し、選定する能力	☆☆	☆☆	0
	⑧学習内容を配列する能力	☆☆		3
学習方法・形態の設定	⑨学習方法を選定する能力	☆☆	☆☆	2
	⑩学習形態を選定する能力	☆☆	☆☆	4
	⑪学習（視聴覚）機器を選定する能力			0
連携機関・施設の設定	⑫関連機関等から情報収集する能力			3
	⑬関連機関等と連携・調整する能力	☆☆	☆☆	2
広報活動	⑭伝わりやすい情報に加工する能力		☆☆	2
	⑮効果的に情報発信する能力	☆☆	☆☆	4
学習情報提供・相談活動	⑯学習情報を収集・整理する能力	☆☆	☆☆	3
	⑰人間関係能力		☆☆	5
学習事業の評価	⑱学習者の満足度等を測る能力	☆☆☆	☆☆	1
	⑲学習プログラムを検証する能力	☆☆☆	☆☆☆	5
	⑳発見した課題を改善につなぐ能力	☆☆☆	☆☆☆	4

自己認識・・・能力を身につける必要性を感じる参加者の度合　☆☆☆ ＝2/3以上　☆☆＝1/2以上

期待度・・・研修で扱う必要の度合　特に必要＝3P　必要＝1Pで回答数に乗じて，40P以上☆☆☆　40～30P ☆☆

効果…本研修で高まった能力を3つ以内で選択した数

上級研修受講者の学びの振り返り（22年度＋23年度受講者）

No.	単語１	回数	単語２	頻度
1	能力	15	高まる	8
2	必要性	5	感じる	4
3	アドバイス	11	適切だ	3
4	課題	27	取り組む	3
5	課題	27	直面する	4
6	業務	10	生かす	3
7	アドバイザー	4	必要だ	2
8	シート	5	活用する	2
9	テーマ	11	決める	2
10	ねらい	3	表現する	2
11	プログラム	7	作成する	2
12	意義	3	ある	2
13	意見	5	もらう	2
14	意識	8	高まる	2
15	課題	27	解決する	2
16	課題	27	発見する	2
17	改善	2	つなぐ	2
18	研修	36	学ぶ	2
19	参加	3	勧める	2
20	仕事	10	進める	2

上級研修受講者の学びの振り返りを、True Teller Ver.6（テキストマイニングソフト）で「係り受け」処理をすると、左のようになった。対象者数が26名と少ないため、定量的に有意なデータとは必ずしもいえないが、一定の傾向は読み取ることができる。「能力－高まる」（8人）、「必要性－感じる」（4人）、「アドバイス－適切だ」（3人）、「課題－取り組む」（3人）など、肯定的な評価が上位を占めていることが分かる。

自由記述の分析からも、上級研修がきめ細やかな指導・相談体制によって、受講者の満足感や達成感を高め、意識変容によい影響を与えていることが窺える。

上級研修のアウトカム評価

市町での日常業務で成果を活用

○これからの市の生涯学習振興・社会教育行政の方向性をまとめた。

○次年度予算編成の説明資料作成に役立った。など…

市町・地区での研修事業を企画運営

○修了者が新しく職員研修を開設（6市町） ←生涯学習センターが支援

○地区公民館研修のリーダー的役割

県レベルの研修事業での指導

○県立生涯学習センター初級研修での支援者

○県公民館職員研修会・県社会教育委員研修会などでの指導・運営

受講者同士，県職員と市町職員，参加者と講師のネットワーク拡大

○継続的な個人研修に関する講師への相談

○県職員（生涯学習センター）と市町職員の連携が拡大

連携・協働のプラットフォームへの乗り入れ

成果と課題（１）

- 県立生涯学習センターの研修モデルの提案

「カンファレンス型研修」の実施

センター・市町・高等教育機関の深い関与

センターの社会教育主事が「協働の要」となる

「成果活用型研修」の実施

職場におけるメンター

初級研修等における企画・運営・支援等の役割

市町合同研修等の企画・運営・支援等の役割

センターの社会教育主事は「アドバイザー」となる

「研究促進型研修」に向けて

個人テーマの設定と取組（目安：30分講義資料）

修了生ネットワークづくり（研究交流会）

社会教育職員の自律性を高めるフレームづくりが課題

研究者が組織的にバックアップ体制を整える

成果と課題（２）

- 広島センター型プラットフォーム

生涯学習・社会教育行政を対象とした研修から

相互理解が容易な関係者で　→　検証

乗り入れが少ないため「創発」の可能性が低い

高等教育機関の研究者連絡組織の運営

そもそも論　→　継続に向けた説明原理

足枷の克服　→　地理・時間・関心・業務等

研修以外の成果をつくり出す必要性がある

幅広い生涯学習振興の観点から

幅広い機関・組織・団体等の乗り入れの可能性

センターのコーディネート機能の強化が課題

社会教育主事の養成（プロセス含）・配置・業務等